

PACオーケストラ

管弦楽

兵庫芸術文化センター管弦楽団

Hyogo Performing Arts Center Orchestra

アジア オーケストラ

圧倒的な存在感

小山実稚恵のラフマニノフ & 大迫力の展覧会の絵

指揮 出口大地
Daichi Deguchi, Conductor



@hno.pherg, berlin

ウィーク 2025

Asia Orchestra
Week 2025

指揮 リオ・クオクマン
Lio Kuokman, Conductor



@Jane Chiang

突き進む新時代のアーティスト 反田恭平 &
新進気鋭 リオ・クオクマンのチャイコフスキー

香港フィル

管弦楽 香港フィルハーモニー管弦楽団
Hong Kong Philharmonic Orchestra @Keith Hino, HK Phil

ピアノ 反田恭平
Kyohai Sorita, Piano



@yuji Ueno

ピアノ 小山実稚恵
Michie Koyama, Piano



@hironichi Uchida

10/4 土

3:00PM開演(2:15PM開場)

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18
Sergei Rachmaninoff: Piano Concerto No.2 in C minor, op.18

大栗 裕:大阪俗謡のための幻想曲
Hiroshi Ohguri: Fantasy on Osaka Folk Tunes

ムソルグスキー(ラヴェル編):組曲「展覧会の絵」
Modest Petrovich Mussorgsky: Tableaux d'une exposition (Pictures at an Exhibition)

10/13 月祝

3:00PM開演(2:15PM開場)

鄭展維:委嘱新作(日本初演)
Charles Kwong: New commissioned work (Japan premiere)

チャイコフスキー:ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 op.23
Piotr Ilyich Tchaikovsky: Piano Concerto No.1 in B flat minor, op.23

チャイコフスキー:交響曲 第5番 ホ短調 op.64
Piotr Ilyich Tchaikovsky: Symphony No.5 in E minor, op.64

アジア オーケストラ ウィーク 2025

ASIA ORCHESTRA WEEK 2025

PACオーケストラ

兵庫県立芸術文化センターでは初の開催となるアジア オーケストラ ウィーク。そして、今回のホストオーケストラを務めるのは、初登場で気合充分の兵庫芸術文化センター管弦楽団。

指揮者には大阪出身、芸術文化センターの近く関西学院大学の法学部を卒業後、東京音大の作曲指揮専攻に進んだ異色の経歴を持ち、2021年の第17回ハチャトゥリアン国際コンクール指揮部門で日本人初優勝を飾り話題となった新進気鋭の出口大地が登場。ソリストには、チャイコフスキー国際、ショパン国際コンクールで入賞、世界の名だたるオーケストラ、国際的指揮者との共演、世界的ソリストとの室内楽、リサイタルなど、圧倒的存在感を放つ日本を代表するピアニスト小山実稚恵を迎え、ピアノ協奏曲の最高傑作の一つ、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番をお届け。さらに、大阪・関西万博にちなんで大栗裕の大阪俗謡のための幻想曲、ムソルグスキーが作曲し、ラヴェルが極彩色を施した壮大な音楽絵巻「展覧会の絵」という贅沢なプログラムをお届けします。



兵庫芸術文化センター管弦楽団

Hyogo Performing Arts Center Orchestra

阪神・淡路大震災からの復興のシンボルとしてオープンした兵庫県立芸術文化センターの専属オーケストラとして2005年9月に設立。楽団員の在籍期間は最長3年。日本をはじめ、ヨーロッパ、アメリカなどでオーディションを行い、世界各地から将来有望な若手演奏家を集め、様々な公演を通じオーケストラ奏者としての経験を積み、優秀な人材を輩出するアカデミーの要素も持つ、世界でも類を見ない新しいシステムのオーケストラである。芸術監督は世界的に活躍する指揮者である佐渡裕が創設時より務め、地元に

「アジア オーケストラ ウィーク2025」(以下AOW)が、2025年10月に兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホールとミュゼ川崎シンフォニーホールで行われる。

1946年より続く歴史ある「文化庁芸術祭」の主催公演である「AOW」は、2002年に誕生。クラシック音楽の本場はヨーロッパ!と頑として譲らない音楽ファンに、アジアオーケストラのレベルの高さを示して来た。今年の「AOW」に参加するのは香港フィルハーモニー管弦楽団と兵庫芸術文化センター管弦楽団の2団体。今年創立51年目となる香港フィルは、海外の著名指揮者も多く指揮台に立つ、アジア

10/4

土

3:00PM開演(2:15PM開場)



10/13

月・祝

3:00PM開演(2:15PM開場)



©Keith Hiro_HK Phil



香港フィルハーモニー管弦楽団

Hong Kong Philharmonic Orchestra

楽団の歴史は1947年に創設された中英管弦楽団に遡り、今ではアジアを代表するオーケストラのひとつとして高く評価されている。

1シーズン150回以上のコンサートを開催し、毎年20万人を超える音楽ファンたちを魅了している。現在はロン・ユーが首席客演指揮者、リオ・クオクマンが常任指揮者、ダニエレ・ガッティがアーティストック・パートナーを務めている。また、タルモ・ベルトコスキが2025/26年シーズンに(次期)音楽監督に、2026/27年シーズンに音楽監督に就任予定。

2019年、イギリスの権威あるクラシック音楽誌「グラモフォン」からアジアのオーケストラ

としては初めて「オーケストラ・オブ・ザ・イヤー」賞を受賞。2015年から18年にかけて行ったワーグナー「ニーベルングの指環」4部作の演奏、録音プロジェクトが好評を博し、同賞の受賞に繋がった。

創立50周年にあたる2023/24年シーズンには10か国22都市で公演を行った。香港および中国の作曲家に積極的に作品を委嘱しており、タン・ダウンやブライト・シェンが自作を指揮した録音がナクソスからリリースされている。https://www.hkphil.org



©hiro.pberg_berlin

指揮 出口大地

Daichi Deguchi, Conductor

第17回ハチャトゥリアン国際コンクール指揮部門にて日本人初の優勝。クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位及びオーケストラ特別賞。2021年にはベルリン放送交響楽団の公演にてヴラディーミル・ユロフスキ氏のアシスタントを務める。

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、アルメニア国立交響楽団等の指揮を経て、2022年7月、東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会にて日本デビューを飾る。その後京都市響、読売日本響、仙台フィル、日本センチュリー響、群馬響、神戸室内管、新日本フィル、東京都響、兵庫芸術文化センター管、大阪フィル、東京響、神奈川フィル、大阪響と立て続けに共演し、今後も日本各地のオーケストラへのデビューが決定している。2024年9月からの1年間、リエージュ王立フィルハーモニー管弦楽団のアシスタントコンダクターに選任。

大阪府豊中市生まれ。関西学院大学法学部卒業後、東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)卒業。2023年3月ハンスアイスラー音楽大学ベルリンオーケストラ指揮科修士課程修了。指揮を広上淳一、田代俊文、三河正典、下野竜也、クリスティアン・エーヴァルト、オペラ指揮をハンス・ディーター・パウムの各氏に師事。またネーメ、パーヴォ、クリスティアン・ヤルヴィ、ドナルド・ラニクルズ、ヨハネス・シュレーフリ、井上道義、沼尻竜典各氏らのマスタークラスにオーディションを経て招待され、薫陶を受ける。公式ホームページ <https://daichideguchi.wixsite.com/daichideguchi>

ピアノ 小山実稚恵

Michie Koyama, Piano

圧倒的存在感をもつ日本を代表するピアニスト。チャイコフスキーコンクール、ショパン国際ピアノコンクール入賞以来、常に第一線で活躍し続けている。協奏曲のレパートリーは60曲を超え、国内外の主要オーケストラや指揮者からの信頼も厚く、数多くの演奏会にソリストとして指名されている。『12年間・24回リサイタルシリーズ』や『ベートーヴェン、そして...』が、その演奏と企画性で高く評価された。22年からはサントリーホール・シリーズ、第1シーズンConcerto(以心伝心)を25年まで開催している。ショパン、チャイコフスキー、ロン＝ティボー、ミュンヘンなど国際音楽コンクールの審査員も務める。また、東日本大震災以降は、被災地の学校や公共施設などで演奏を行い、仙台では被災地活動の一環として自ら企画立案し、ゼネラル・プロデューサーを務める「こどもの夢ひろば"ボレロ"」を開催。CDは、ソニー・ミュージックレーベルズと専属契約を結び、33枚をリリース。最新アルバム『モノローグ』まで7作連続して「レコード芸術」特選盤に選ばれている。著書として「点と魂と」、また平野昭氏との共著「ベートーヴェンとピアノ」を出版している。

05年度文化庁芸術祭大賞、13年度東燃ゼネラル音楽賞本賞およびレコード・アカデミー賞、16年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。17年度紫綬褒章を受章。



©ND CHOW



©Yuji Ueno

ピアノ 反田恭平

Kyohei Sorita, Piano

2021年、第18回ショパン国際ピアノ・コンクールにて日本人では半世紀ぶり最高位となる第2位を受賞し、世界の注目を集めた。2016年のデビュー以降、幅広い聴衆を魅了し続けており、国内外のオーケストラとの共演回数はすでに300回以上に及ぶ。

2021年には自身のオーケストラであるJapan National Orchestra (JNO)を株式会社化し、ファンと音楽家を繋ぐ音楽サロン「Solistiade」を立ち上げた。現在はウィーンを拠点に、ヨーロッパ、カナダ、アジアなど世界中で活躍。2024年、米フォーブス誌の「Forbes 30 Under 30 Asia - Class of 2024」に選出された。

2025年には、ザルツブルグ音楽祭史上初の弾き振りの出演で、モーツァルテウム管との再共演の他、ソリストとしてミュンヘン・フィル、トーンキュンストラー管定期公演への再出演、国内ではベルリン・フィルメンバーで結成されたシャロウン・アンサンブル・ベルリンとの室内楽ツアーなどを予定している。

指揮 リオ・クオクマン

Lio Kuokman, Conductor

香港フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者、マカオ管弦楽団音楽監督兼首席指揮者、マカオ国際音楽祭プログラム・ディレクター、スロヴェニア放送交響楽団首席指揮者、関西フィルハーモニー管弦楽団アーティストック・パートナー。フィラデルフィア・インクワイアラー紙から「驚くべき指揮の才能」と賞賛され、バリで開催された第3回エフゲニー・スヴェトラノフ国際指揮者コンクールでは第2位および聴衆賞とオーケストラ賞を受賞。フィラデルフィア管弦楽団で中国人としては初めて副指揮者となった。

ウィーン交響楽団の定期演奏会、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団の初のサウジアラビア・ツアーにも登場した。オペラ公演にも積極的で、台中国家歌劇院の「セビリアの理髪師」、ムジカ・ヴィヴァ(香港)の「ラ・ボエーム」、「愛の妙薬」、「トゥーランドット」、「蝶々夫人」、「カルメン」を指揮。フレリイ・ゲルギエフの招きで、マリインスキー劇場に客演指揮者として登場。コンサート・ピアニストとしては、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、フォートワース交響楽団と共演している。

香港演芸学院、ジュリアード音楽院、カーティス音楽院、ニューイングランド音楽院で学び、芸術文化の発展への貢献が評価され、香港、マカオ両政府から文化功績勲章が授与された。2021年香港十大傑出青年賞、2022年第16回香港芸術発展賞の年間最優秀芸術家賞(音楽部門)を受賞。



©Keith Hiro_HK Phil

磯島浩彰(音楽ライター)

「アジア オーケストラ ウィーク」とは？

「文化庁芸術祭」は、1946(昭和21)年より開催され、今年で80回目を迎える、わが国で最も歴史と伝統ある芸術の祭典です。

アジア太平洋地域最大規模の“プロ・オーケストラによる国際フェスティバル”である「アジア オーケストラ ウィーク」は2002年にスタート。「文化庁芸術祭」の一環として過去22回の開催実績を誇り、国内外から高い評価を得ています。

これまでに、中国、韓国、香港、モンゴル、タイ、フィリピン、シンガポール、ベトナム、マレーシア、インドネシア、インド、スリランカ、トルコ、さらにはオセアニアのオーストラリア、ニュージーランドなど、16の国と地域から各国を代表するプロフェッショナル・オーケストラのべ60団体以上参加し、各国の豊かな文化伝統に育まれた彩り豊かな熱いサウンドをお届けしてまいりました。

また、2011年に発生したクライストチャーチ地震(ニュージーランド)と東日本大震災を機に、日本国内のプロ・オーケストラも参加するようになり、2019年まで毎年被災地での合同演奏を行うなど、オーケストラ同士の密度の濃い相互交流が育まれてきました。

「アジア オーケストラ ウィーク」は単なる国際的なクラシック音楽イベントに留まらず、オーケストラという、大きな可能性に満ちた世界共通の文化装置(財産)によって、アジア太平洋地域に暮らす人々の相互理解や共感を促す未来志向の取り組みなのです。



指揮者のトム・ウッズと山下一史の両氏が「By Power of the music, We will advance Together」と書かれたメッセージを掲げた。(2011年、日立システムホール仙台コンサートホール)



香港シフォニエッタによるアウトリーチコンサート(2019年、福島県白河市立白河第一小学校)

令和7年度(第80回)文化庁芸術祭主催公演

アジア オーケストラ ウィーク2025

特設ウェブサイト: <https://www.orchestra.or.jp/aow2025>



兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

兵庫芸術文化センター管弦楽団

2025. 10/4(土) 3:00PM開演(2:15PM開場)

出演 出口大地(指揮)、小山美穂恵(ピアノ)

曲目(予定) ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18
大栗 裕:大阪俗謡による幻想曲
ムソルグスキー(ラヴェル編):組曲「展覧会の絵」

香港フィルハーモニー管弦楽団

2025. 10/13(月・祝) 3:00PM開演(2:15PM開場)

出演 リオ・クオクマン(指揮)、反田恭平(ピアノ)

曲目(予定) 鄭展維:委嘱新作(日本初演)
チャイコフスキー:ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 op.23
チャイコフスキー:交響曲 第5番 ホ短調 op.64

ミュザ川崎シンフォニーホール

香港フィルハーモニー管弦楽団

2025. 10/14(火) 7:00PM開演(6:15PM開場)

7/28(月)発売開始

※ご予約方法は上記特設ウェブサイトよりご確認ください。

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

広がりゆくアジアのオーケストラ市場

2025. 10/12(日) 10:00AM~12:00AM

- (1)日本から見たアジア、香港から見たアジアと日本
- (2)コンテンツ産業とオーケストラ
- (3)次世代オーケストラ・プレイヤーの育成環境(香港フィルとPACの事例から)

※お申し込み方法は上記特設ウェブサイトよりご確認ください。

※芸術文化センターチケットオフィスでのお申し込みの取扱いはございません。

チケット	A席2回通し券	10/4(土) PACオーケストラ	10/13(月・祝) 香港フィル
	¥8,000	A¥4,000 B¥3,000 高校生以下¥1,000	A¥5,000 B¥4,000 高校生以下¥1,000

※通し券は、両公演とも同じお席でご鑑賞いただけます。 ※通し券の取扱いは芸術文化センターチケットオフィスのみ

芸術文化センター会員 先行予約受付開始	A席2回通し券	1回券	一般発売
	7/11(金)	7/12(土)	7/13(日)

ご予約
お問合せ

芸術文化センターチケットオフィス

☎0798-68-0255

10:00AM~5:00PM
月曜休※祝日の場合翌日

※プレイガイドでのお取り扱いについては各プレイガイドにお問い合わせください。

※未就学児童のご入場はご遠慮ください。

※やむを得ない事情により、出演者・曲目等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

チケット
予約

芸術文化センター ▶ <https://www.gcenter-hyogo.jp>
e+(イープラス) ▶ <https://eplus.jp>
チケットぴあ ▶ <https://pia.jp/t/>
ローソンチケット ▶ <https://l-tike.com>

直接購入

芸術文化センター2階総合カウンター [7/15(火)より、残席がある場合のみ]

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22
阪急西宮北口駅南改札口スグ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)



兵庫県立
芸術文化センター



<https://www.gcenter-hyogo.jp>

兵庫県立芸術文化センター
Hyogo Performing Arts Center

先行予約会員へ
ご登録はこちら



便利なアクセス!!

大阪梅田からも神戸三宮からも
ホールまで15分
(阪急電車特急乗車の場合)

◎阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ(連絡デッキで直結)

◎JR 西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

